

1泊2日“福山城主”

初の1泊2日城主になったのは豪州出身で観光アドバイザーのクリス・グレンさん(54)ら日本に住む外国人の2人。殿様の雰囲気衣装に身を包み、家臣に扮した市職員らに迎えられて入城。夕食は、福山特産のクワイなど県内の味覚が詰まった和膳を天守南東の月見櫓で堪能、隣接する湯殿で能も鑑賞した。その後、天守最上階に上り、軽食を取りながら城下の夜景を楽しんだ。

宿泊は月見櫓を活用した。2階の寝室の壁には藩主の水野、阿部両家の家紋をあしらった、ベッドを配置。1階は幕末の福山藩主で老中首座を務めた阿部正弘が横濱でペリーをもてなした宴席会場が再現されている。

体験したクリスさんは「天守や現存する櫓がある福山城は特別で、欧米人には満足できるプランだと思う。琴の演奏を聞きながら見た天守からの眺めは最高」と喜んでいました。

訪日客取り込みへ市実証実験

福山市は17、18の両日、築城400年でリニューアルされた福山城(福山市丸之内)を宿泊施設として活用する「城泊」の実証実験を行った。城主になったような趣向で宿泊客をもてなし、インバウンド(訪日客)需要の取り込みに期待する。実験で課題を洗い出し、観光の新たな目玉として本格導入につなげることを目指す。(上田勇輝)



天守最上階から福山の夜景を堪能する体験者



体験者が宿泊した月見櫓2階の部屋

外国人 市特産の夕食、夜景堪能



武士の装いに身を包んだ市職員らに迎えられる2人の宿泊体験者(右)

市は築城400年記念事業の予算から実験費として約900万円を計上。本年度内に計3回の実験を行い、宿泊を委託した事業者による体験者へのヒアリングなどを基にプランや設備の改善につなげる。本格導入は2023年度以降を見込み、宿泊費は1組100万円程度を想定する。

東川真也・市文化振興課長は「福山ならではの要素を出せるかが今後の課題。天守や櫓を十分に活用し、魅力や価値を高めたい」と話した。

19日付山陽新聞、備後版

Q1 福山市は福山城を宿泊施設として使うことで、どのような需要の取り込みを期待していますか。第1段落や見出しを参考に答えましょう。

Q2 福山市は殿様の雰囲気衣装や天守最上階からの夜景など、宿泊客が城主になったように楽しめる工夫を考えています。夕食にはどのような工夫をしていますか。第2段落に注目です。

Q3 皆さんの住む地域には、外国人の人や観光客におすすめできる場所がありますか。理由も考えましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。